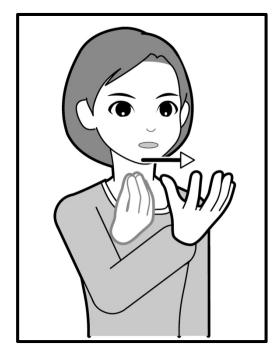
新元号「令和」の手話表現について



1. 解説

花のつぼみがゆるやかに開き、やがて花びらが環となった指先からふくよかな薫りをはなち、和みゆくさまを表しています。

2. 動作説明

指先を上に向けて5本の指をすぼめた片手を、 胸の脇に出し、前に動かしながら指先を緩やかに 開く。

3. 経過説明

令和の意味について、風和む初春2月に梅のつ

ぼみが開き、蘭が薫りをはなつ、との説明などを引用しました。

日本手話研究所は4月1日午後6時に全国手話研修センターで標準手話確定普及研究 部委員会を開きました。委員会は委員6名全員出席のもと、北海道から九州までの全国 9ブロック全班(44名)から提案された手話〈令和〉の表現案を約1時間かけて論議、 検討しました。

その結果、上記のような〈令和〉を委員会委員の全員一致により確定しました。この 手話は全国のろう者、手話言語関係者の総意の結晶と確信しています。

手話は意味がわかりやすく、動作が簡単で、しかも他の手話と区別できるように、世界の和を願って工夫したものです。

〈令和〉の手話はどなたでも自由に使用できます。この〈令和〉が障害のあるなしに かかわらず自然な形で日本はもちろん世界の人たちに愛され、普及してゆくことを願っ ています。

標準手話確定普及取組みは1969(昭和44)年に全日本ろうあ連盟が設置した手話法研究委員会以来、 今年で50年となる継続的取組みであり、1979年から厚生労働省の委託事業となっているものです。(現 在の名称は「手話通訳技術向上等研修等委託事業 手話研究・普及事業 」)